



未来を拓く 枚方の教育

枚方市教育委員会



知っていますか？教育を取り巻く現状

変化の激しい現代社会では、教育を取り巻く現状も以前とは大きく変わっています。個別最適な学びとは？将来を見据えた教育とは？といった課題を常に意識した、変化に対応できるしなやかな教育が求められています。

社会とのつながりを意識し自ら考えて課題を解決する教育

物価高も影響した経済的格差による子どもの貧困

教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

誰一人取り残されない共生社会の実現に向けた教育

グローバル化する社会で活躍するリーダー人材の育成

児童数の減少に伴う学校統合・学校規模適正化

地球温暖化による学校内での熱中症の危険性

学校が認知したいじめ件数過去最多

小中学生の暴力件数過去最多

年間30日以上登校していない小中学生過去最多

公立学校の教員の採用倍率過去最低

今と向き合い未来を拓く枚方の教育

これまでのそろえる教育ではなく、児童生徒の個性に応じて、のばす教育に取り組んでいます。学校だけでなく、地域や企業とも連携して社会とつながった、未来を拓く教育を実践しています。

地域や企業とともに考える課題解決型学習

市独自の小学校給食無償化

一人一台端末を活用した最先端のICT教育

一人ひとりの教育的ニーズに応じた「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

関西外国語大学と連携した留学生や外大生との英語交流

新しい学校のカタチを提案する禁野小学校の開校

授業教室だけでなく、全小中学校の体育館に空調設備を導入

教育委員会だけでなく、市役所と連携したいじめ対策

自己肯定感を高める発達支持的生徒指導

リアルでもオンラインでも、それぞれの子どもに居場所を届ける不登校支援

本気の教職員働き方改革「笑顔の学校プロジェクト」

「子ども主体の学校づくりを推進」

変化を受け入れ、 常に学び続けること

私が学校現場にいた時と比べて、教育環境の変化は激しいですね。枚方市でも児童・生徒の一人一台端末を活用したICT教育や、子どもたちが自ら考えて自分なりの解決方法を見つける課題解決型学習(PBL)など、社会状況を踏まえ、子どもたちの未来を見据えた新たな学びに取り組んでいます。「知識の詰め込み型」から「思考型」の教育への転換が求められる中、教職員、教育委員会、もちろん私も常に学び続けたいといけません。教育者として長年の経験がありますが、それに固執することなく、これまで通りの方法は今の子どもたちに合っているか、必要な内容かを考え、変化も柔軟に受け入れて、子どもたちそれぞれに最適な学びを提供していきたいです。

子ども主体の 学校づくりを

私が大切にしているのは、「子どものために学校はある」といった考えです。学校が、子どもたちにとって「行きたい」とワクワクできる場、「新たなことに挑戦したい」と成長できる場となり、対人

対応も含めた心の成長や、将来役に立つスキルの向上など社会に出てでも対応できる、いわゆる「生きる力」を育める場でありたいと思っています。学校は子どもを「育てる」場所ではなく、子どもが「育つ」場所です。そのためにも、教職員や保護者、地域と力を合わせて、子どもたちがのびのびと過ごせる環境を整え、自ら考え、自ら学ぶ「子ども主体の学校づくり」を進めていきたいと考えています。

枚方の教育を 誇りに感じてほしい

私は教育長就任以前も、色々な立場で枚方の教育に携わってきましたが、他市と比べても進んだ取り組みを行っているというのが印象です。事実、枚方市教育委員会には他市からの視察も多く、全国の教育関係者が集まる場で枚方の取り組みを発表してほしいと登壇依頼もあります。デジタル庁の副大臣がICT教育の先進自治体として視察に来られ、非常に進んでいると評価をいただいたこともあります。各種取り組みは「枚方モデル」と言われるほどの評価を受けていますので、子どもたちや保護者の皆様、教職員にも枚方の教育の現状を丁寧にお伝え

して、枚方の学校に通っていること、枚方の学校で働めていることに誇りを感じてもらえるようになればと思っています。

チャレンジの大切さ

今の子どもたちは、非常にたくさんの情報に囲まれています。その中で、取捨選択し、必要なことを見極めて判断していかないといけません。目まぐるしく変わる現代社会においては、一度正解と思った内容も違う場面では通用しない場合があります。子どもたちには、一つの正解だけを拠りどころにするのではなく、状況に合わせて臨機応変に対応できるよう「常にチャレンジする姿勢」の大切さを伝えています。たくさんの新しい経験と、正解にたどり着くまでの様々な道のりは困難がある分、大きな成長につながることでしょう。また、チャレンジの中から自分の好きなことが見つければ、それぞれの将来につながる種になるかもしれません。新しいことへのチャレンジは、つい臆病になってしまいますが、子どもたちが夢と志をもって意欲的にチャレンジできるよう、教育長として、これからも学習環境をしっかりと整えていきたいと思っています。

教育長 谷元 紀之

Profile

昭和59年～枚方市立小学校教諭
平成20年～市立開成小学校校長
平成28年～枚方市教育委員会委員
令和7年～枚方市教育委員会教育長
趣味:お寺巡りと御朱印集め
子どもの頃の夢:パイロットになること

子ども主体の魅力ある学校づくり

枚方市では、一人に一台配備されたタブレット端末の効果的な活用などにより、子どもたちの多様な状況に合わせ、それぞれの個性を生かして主体

的に学ぶことができる「子ども主体の魅力ある学校づくり」を進めています。取り組みが進む枚方市の学校現場を少し覗いてみましょう。

発達支持的生徒指導

安全で安心な学校や教室の基盤となるのは「発達支持的生徒指導」です。これは特別な指導ではなく、日常の挨拶や声かけ、励まし、賞賛、対話を通じて、子どもたち一人ひとりの個性や良さを見つけ伸ばし、社会性や能力の発達を支える基本の考え方です。教職員は授業や行事の中で、子どもたちの成長をそっと支えています。

ICTの効果的活用

ノートや鉛筆のように、タブレット端末を「文房具」のひとつとして活用しています。特性を生かして、情報の整理や意見の共有が容易になり、学習活動がより深く、広がりのあるものになるよう取り組んでいます。

合理的配慮

一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びを大切にすることで、困り感に気づき、全体の指導だけでなく、それぞれの子どものに合わせた「ちょっとした工夫や配慮」で安心して学べる環境づくりに取り組んでいます。

個別最適な学び

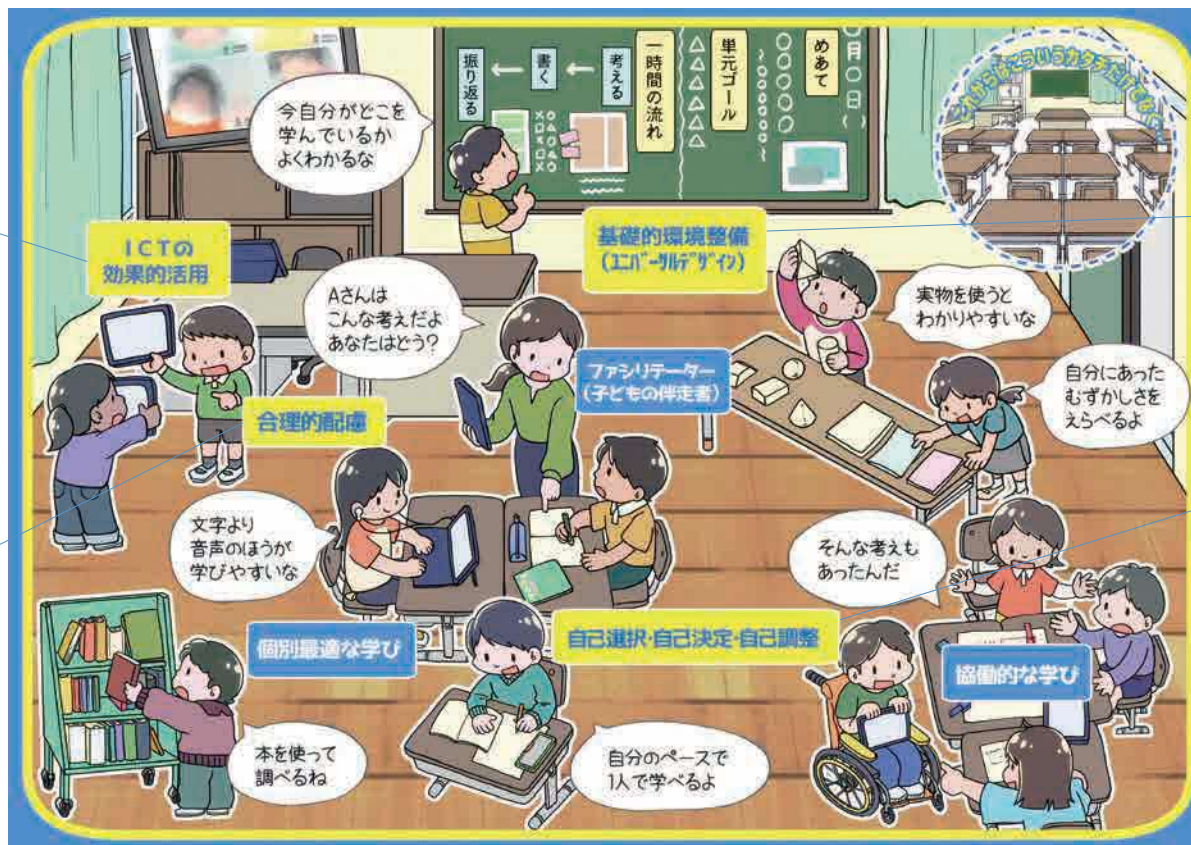
子どもたちは、興味・関心、理解の早さ、得意・不得意などがそれぞれ異なります。子ども一人ひとりの違いを大切にしながら、それぞれのペースや関心に応じた個別最適な学びの実現をめざします。

ファシリテーター(子どもの伴走者)

これまでの授業では先生が一斉に教えることが中心でしたが、今は子ども主体の学びが重視されています。先生は知識を教える存在から、学びを支える伴走者の役割へと変わりつつあります。

協働的な学び

対話を通じて「そういう考え方もあるんだ」と気づく場面を作ることで、自分の考えを深めたり、新しいアイデアを生み出したりすることができることも、他者を尊重しながら学び力や協力する力を育てます。



基礎的環境整備 (ユニバーサルデザイン)

みんなが使いやすい、わかりやすい、過ごしやすいように工夫された学校の基礎的環境により、すべての子どもたちが大切にされていると感じる学校環境の整備に取り組んでいます。

自己選択・自己決定・自己調整

子どもたちが、「誰と学ぶのか・1人で学ぶのか」や「紙を使うのか・タブレット端末を使うのか」などを、自分で選んで決める機会を作ること、学習を「自分ごと」として捉え、主体的に学習に取り組めるよう環境を整えています。

正解は一つじゃない、自分たちで考えて解決する

課題解決型学習（PBL）



「枚方の魅力って何だろう？」「学校のバリアフリー化に向けて自分たちには何ができるだろうか？」答えが一つではない身近な課題に対して、子どもたちが自ら問いを立て、必要な情報を収集したり、解決に向けてデータを整理・分析したりしながら主体的に学びを進めます。誰かに与えられる学びではなく、自ら考えて解決策を提案する学びを通じて、変化のスピードが速い現代において、「実生活・実社会で生きて働く力」「未来を切り拓く力」を身につけます。

ヒラカタノタカラプロジェクト



「ひらかた」の文字の中には、「たから」が隠れています。地域の宝である子どもたちが、自ら考えて自分なりの答えを見つけ出すPBLの取り組みは「ヒラカタノタカラプロジェクト」と名付けて実施しています。市内企業とも連携しながら、「枚方の自然・文化・行事」を未来につなげていく願いを込めて、「子どもたち」と「枚方のまち」の未来への可能性を最大限に伸ばすことを目標に取り組んでいます。

タブレット活用率は全国トップレベル

最先端のICT教育

枚方市では、市立小中学校の児童・生徒に一人一台セルラーモデルのiPadを配備しています。Wi-Fi環境がなくてもインターネットにつながる教育環境は全国でも珍しく、いつでも・どこでも、「学びたい時に学ぶ」ことができます。「学びたい瞬間を逃さない」環境が、子どもたちの主体的に学ぶ力や、情報を取り扱う力、変化に適応する力などを育み、未来を育てる教育につながっています。また、生成AIやメタバース空間など、最先端技術の活用にも積極的にチャレンジし、これからの備えた体験を子どもたちに提供しています。



Check!

枚方市のタブレット活用率は全国トップレベル。未来を見据えた効果的なデジタル活用を進める一方で、実物を見る、触る、手書きで覚えるなどアナログの優位性にも着目しながら、最適な学習方法を選択して授業を実施しています。



教職員が元気な学校は子どもたちも元気な学校

教職員の働き方改革 -笑顔の学校プロジェクト-

本市の働き方改革は、教職員の働きやすさと働きがいの両立、ワークライフバランスとウェルビーイングの向上を実現し、教育の質の向上をめざすものです。「笑顔の学校プロジェクト」では、「業務改善」「労働安全衛生」「ワークエンゲージメント」の3つの柱を基に各校が取り組みを推進しています。

本市では、令和2年度から学校における働き方改革を本格的に進め、現在、教員業務をサポートする教員業務支援員を全校に配置しています。また、教職員専門の産業保健スタッフ(臨床心理士・保健師)を教育委員会内に配置し、心身の健康管理を強化している点は、全国的にみても先進的な取り組みです。

大 学 生 の 声

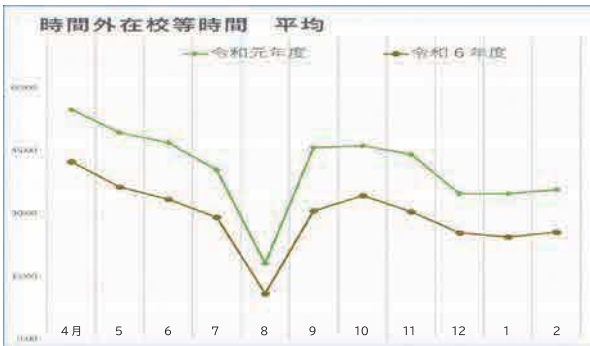
★「教職はブラック」という負のイメージばかり見てしまっていた自分がいましたが、現場の先生と交流して、「教師は働き方改革をしてでも続けたい仕事」と仰っていたことが印象に残っています。

★何かを変えたい時にどうするか尋ねた際、「小さなことから変えてみる。やらない理由探しよりも、まずはやってみること」という先生たちの考えに触れて、将来、自分が働くかもしれない環境が働きやすくなる展望が見え、教師という仕事について前向きに捉えられるようになりました。

※教職課程の大学生との意見交換より抜粋



▲市全体で一丸となり、働き方改革に向けた情報共有や方策検討の様子



▲令和6年度の時間外勤務の平均時間数は令和元年度と比べて25%削減

※3月は新型コロナの影響が大きいため、比較対象とせず

職員一人ひとりが、自身のライフスタイルを考える時間を持つことができる工夫をしていきたいです。そのことが、生徒の多様な価値観を育てることに繋がるのではと感じています。

山田中学校 田中校長



先生1人じゃなく、チームで最先端の学びを提供

横断的な連携による授業改善

初任者研修から管理職研修まで、基本研修・職務研修・専門研修はもちろん、さらに、教職員の「学びたい」意欲を大切に、多くの“学びの場”を設定しています。研修テーマは、支援教育、生徒指導、国語教育、英語教育、体力向上、課題解決型学習(PBL)など様々。「伝達型・ハウツー型」より「探究型」を重視した研修内容となっているので、それぞれの「気づき」から学ぼうとする意識が醸成されることは、実践を発展させる大きな力に繋がっていきます。



GiGAスク！ひらかた

ポータルサイト「GiGAスク！ひらかた」では、各校の授業実践事例集や端末の使い方に関する資料・動画など、ICT活用に役立つ情報を掲載。児童生徒・保護者・教職員はいつでも閲覧可能。ICTでつながり、市内どの学校でも最適な学びを提供しています。

テーマごとのワーキングチーム

PBL、生徒指導、支援教育などをテーマに、教職員が学び合うワーキングチームがあります。

より良い授業づくりや安全・安心な学校づくりに向けた実践の共有と対話が、各校でのさらなる実践につながっています。

教育委員会事務局の組織力強化のための勉強会

小さな越境

教育委員会でも定期的に職員が集まり、他部署の取り組みを知るために「小さな越境」と名付けた勉強会を開催しています。より良い教育の推進や課題の解決に向けて、課を超えた職員同士の対話による気づきから、取り組みの深化・広がりをめざしています。自身の担当業務の専門性向上だけでなく、異なる視点・専門性を持つ個人や組織が、相互理解に努め、多様な視点を取り入れることが組織力向上のポイントになると考えています。

どんなときも子どものそばに

状況に応じた不登校支援対策

不登校やその傾向のある子どもに対し、校内教育支援ルームや教育支援センター「ルポ」、メタバースなどを活用し、一人ひとりの状況に応じた相談支援や居場所を提供しています。子どもが安心して成長し、将来的な社会的自立につながるよう支援を進めています。



ともに学び、ともに育つ

一人ひとりと向き合う支援教育

多様な子どもたちが違いを認め合いながら一緒に過ごす教室で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びを実現することで、すべての子どもたちが安心して過ごせる学校をめざし、子どもの意見が大切にされる「ともに学び、ともに育つ」教育を進めています。



「やりたい！あそびたい！まなびたい！」でいっぱい放課後に

総合型放課後事業

放課後に保育を必要とする児童に適切な遊びや生活の場を提供する「留守家庭児童会室」と、すべての児童が主体的に過ごせる場として学校の一部を開放する「放課後オープンスクエア」を一体的に運営。また、地域の特色を生かした体験活動を提供する「枚方子どもいきいき広場」を実施しています。



市独自の経済的支援

小学校給食費を無償化

市独自の子育て世帯の負担軽減策として、市立小学校に在籍する児童の給食費を無償としています。また、枚方市の給食は郷土料理や行事食などを献立に取り入れ、食文化を継承する「食育」にも力を入れています。地元産の農産物や旬の食材を使った新鮮かつ安全で、おいしい給食を提供しています。



プロの指導サポートで泳力向上

水泳授業民間活用

インストラクターの指導サポートによる小学校水泳授業が広がっています。泳力向上だけでなく、計画的な授業実施や年間を通じた水泳授業が可能になるなど授業カリキュラム設定の上でもメリットあり。プールの老朽化が著しい学校などから順次移行し、全校実施に向けて取り組んでいます。



いつでもどこでも本と触れ合える

暮らしと学びをつなぐ図書館

公共図書館では、ICタグの一括読み取りで、簡単・便利に本を借りられる自動貸し出し機や24時間利用可能な予約図書受け取りロッカーの導入、オンライン上で本を借りられる電子図書館の運用などでいつでも気軽に図書と触れ合える環境を整えています。また、学校図書館機能の充実にも取り組んでいます。



快適な空間でよく学びよく育つ

全小中学校体育館に空調整備

市内全市立小中学校の体育館への空調整備が完了しました。普通教室はもちろんのこと、音楽室や美術室など特別教室の空調整備も完了しており、子どもたちは快適な環境の中でしっかりと授業を受けることができます。また、体育館空調は災害時における第一次避難所としての活用も想定されています。



地域資源を生かした

留学生と触れ合う実践的な英語教育

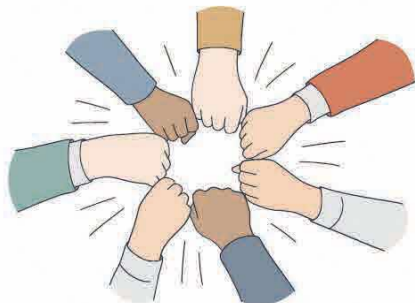
地元の関西外国語大学と連携した「MuChat Hirakata」を定期的に開催。mutual understanding(相互理解)とChat(おしゃべり)を掛け合わせた言葉で、言語の壁を越えた相互理解が深まるよう取り組んでいます。留学生との交流を通して異文化を学び、普段の授業で身につけた力を楽しみながら発揮し、日常で使える実践的な英語力の向上につなげます。



相談しやすいところへ相談を

市役所とも連携したいじめ対策

枚方市教育委員会の「いじめ専用ホットライン」には多くの相談が寄せられ、必要に応じて学校と連携し解決をめざしています。学校や教育委員会に相談しづらい場合は、市役所の窓口(人権政策課)でも相談できます。市役所と教育委員会、学校で組織を超えた連携をしっかりと行い、相談の声をすぐに拾える体制整備に取り組んでいます。



- 枚方の教育最新トピック -

TOPIC 1

禁野小学校の新校舎が完成

高陵小学校と中宮北小学校が統合して誕生した禁野小学校の新校舎が令和8年8月に開校します。新校舎は「学校施設全体を学びの場とする」をコンセプトに、これまでの教室と廊下で構成されてきた学校の固定概念から脱し、廊下兼用のオープンスペースを設けており、普通教室の引戸を開放することで、学習空間を広く使える仕様となっています。また、オープンで親しみやすい学校図書館を中心とした教室配置により、児童が興味に応じて図書を活用しやすい環境を整えるなど、新たな学びを支える学校のつくりとなっています。



▲北摂山系や淀川の眺望により地域愛を育む学校



▲学校全体を学びの場とするシームレスな教室設計



▲廊下との間仕切り壁がないオープンな図書館

TOPIC 2

評価される枚方の教育

01 デジタル大臣賞受賞

先進的にICT教育に取り組む自治体を表彰する日本ICT教育アワードで、一人一台端末の効果的な活用や、生成AIの活用等が総合的に評価されて2024年に「デジタル大臣賞」を受賞しています。

02 Apple社公式ホームページでも枚方市を紹介

Apple Inc. の公式ホームページでiPadを活用した先進的なICT教育に成果をあげている自治体として、スコットランドやインドの学校などと並び、枚方市が全世界で紹介されています。

03 多数の視察依頼、講演依頼

教職員の働き方改革や先進的なICT教育の状況などについて、毎年全国の自治体から多くの視察依頼があり、テレビ出演や各種教育イベントでの講演依頼も受けています。



< 令和7年5月1日時点 >

人口:39万2,048人

(大阪府内で第5位、近畿で第10位)

面積:65.12km²

公立小学校:44校

児童数 18,596人 教職員数 1,358人

公立中学校:19校

生徒数 9,367人 教職員数 729人

教 育 委 員 会

教 育 長 谷元 紀之

委 員 近藤 孝 中西 悠子

大中 智恵 桐山 智巳



教育委員会ホームページ



枚方市プロモーションサイト